

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

研究ノート(2)

会津大学短期大学部

産業情報学科

時野谷 茂

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

研究ノート(2)

時野谷 茂

平成 20 年 12 月 20 日受付

【要旨】 本稿はロンドンに一般にあり都市景観の主要な要素となっている TERRACED HOUSE について町並み構成パターンを中心に調査した結果について記すものである。今回はロンドンの西部 Queens Park 駅の南側の Kensal Green 地区を対象とした。範囲は London & Northwestern Railway の線路を北の境とし、南は運河 Grand Junction Canal Paddington Branch そして東は Kilburn Park Road で囲われた地域 (図-02 上図) である。結果として 51 街路 (家並としては 133) 3366 住戸についてのデータを集め分析を行なった。

前回の Fulham 地区との比較でこの地区の特徴を述べると家並み構成単位については (b) の鏡写しの 2 戸を組み合わせたものが Fulham 地区では 76%、Kensal Green 地区では 75% と大きな差はないが、(d) の (b) と (c) を組み合わせて更に大きなパターンを成すものが前者 3%、後者 6%、(e) の (b) または複数の (b) と別の 1 戸を組み合わせて大きなパターンを成すものが前者 4%、後者 11% と 2 倍以上の差がみられた。1 家並みに見られる建物の施用面デザインの種類については Fulham 地区では 1 種類 (62%) と 2 種類 (24%) でほとんどを占めているのに対し 1 種類 (34%)、2 種類 (34%) そして 3 種類 (23%) と異なったデザインの住戸を多用しているという特色がみられた。全体構成については Fulham 地区では (ア) 単一のパターンを連続させるもの (71%)、(ウ) 家並みを数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの (通りによる分節無し) (21%) とこの 2 タイプで 9 割を占めるのに対し (ア) (47%)、(ウ) (10%) と 6 割弱であり、代わって (イ) 家並みを数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの (通りによる分節有) (16%)、(オ) の同一デザインで構成される家並みを数区に分け分節点に別のパターンを配するもの (15%)、(カ) の同一デザインで構成される家並みを数区に分け分節点に別のパターンを配し、全体として象徴的な形態を形作るもの (7%) がみられた。道路の両側の関係ではシンメトリーの関係にあるものが Fulham 地区の 11% に対し 20% と多くあった。また第 1 及び第 2 地区ではベースメント階を持たない 2 階建てで構成される家並みに Inigo Jones が目指した住戸を集めて宮殿のような立派な建物とするという考え方が色濃く出ていたといえる。

1. はじめに

本稿はロンドンに一般にあり都市景観の主要な要素となっている TERRACED HOUSE について町並み構成パターンを中心に調査した結果について記すものである。これに類する研究は FULHAM 地区を対象に行いそのデータを「ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(1)」として会津大学短期大学部研究年報第 54 号に発表し、それを発展させて後に「Terraced House In London Façade composition analysis from townscape viewpoint」として台湾で開催され Third Asia Design Conference Proceeding 1998.10 で発表した。今回はロンドンの西部 Queens Park 駅の南側の Kensal Green 地区を対象とした。範囲は London & Northwestern Railway の線路を北の境とし、南は運河 Grand Junction Canal Paddington Branch そして東は Kilburn Park Road で囲われた地域(図-02 上図)である。結果として 51 街路(家並としては 133) 3366 住戸についてのデータを収集し分析を行なった。

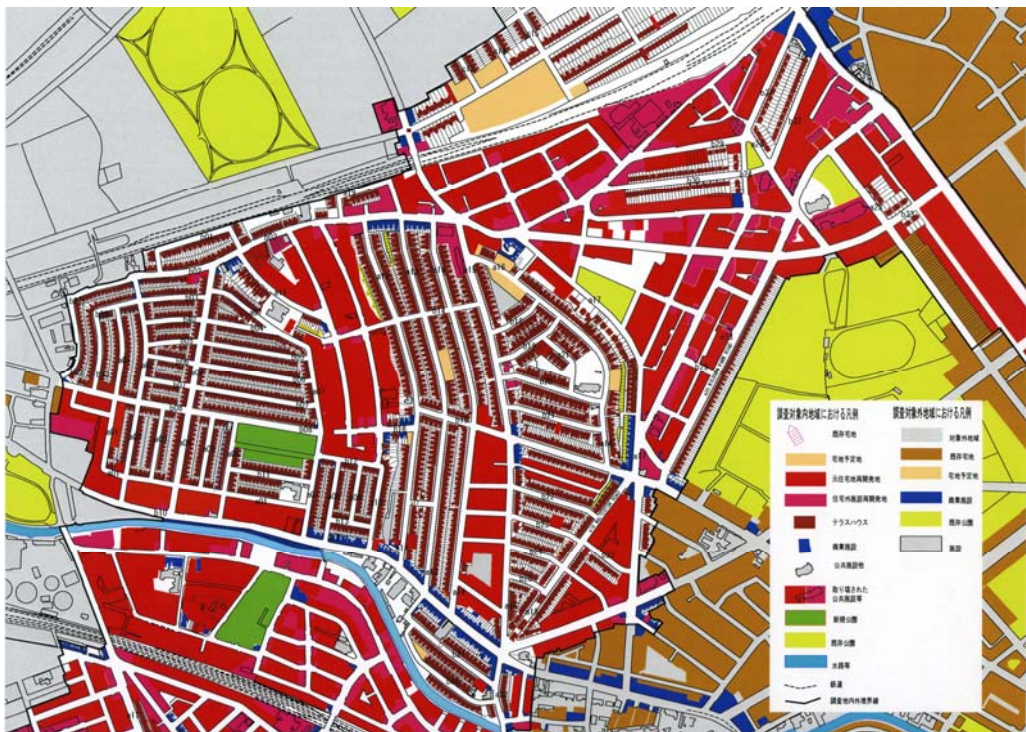


図-01: 調査対象地区並びに周辺の現状

2. 調査方法

調査方法は前回と同様に「ORDNANCE SURVEY MAPS, 25 inches to the mile」の復刻版を用い、そ

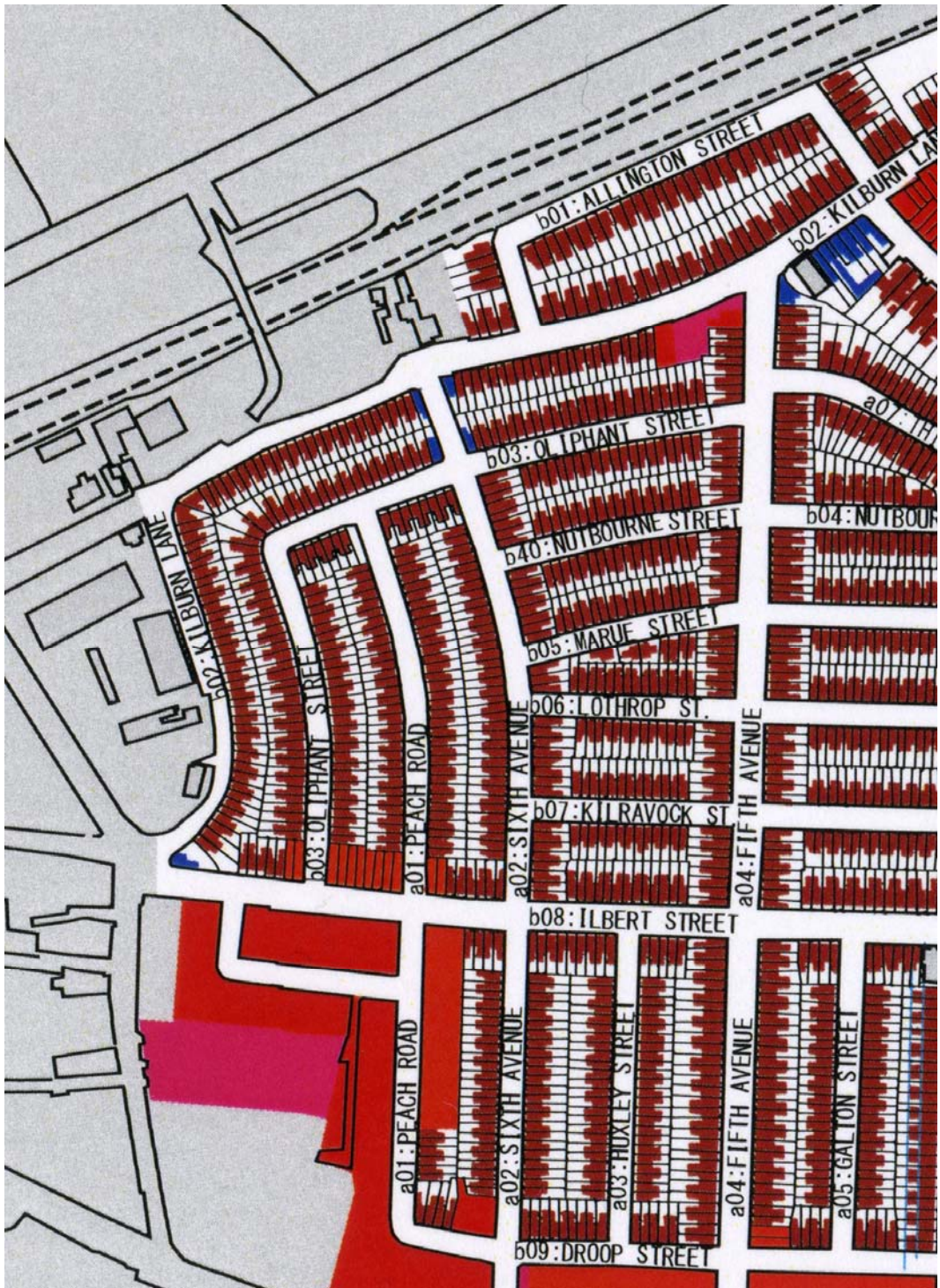


図-03a: 調査対象地区 (地域番号 1) 詳細

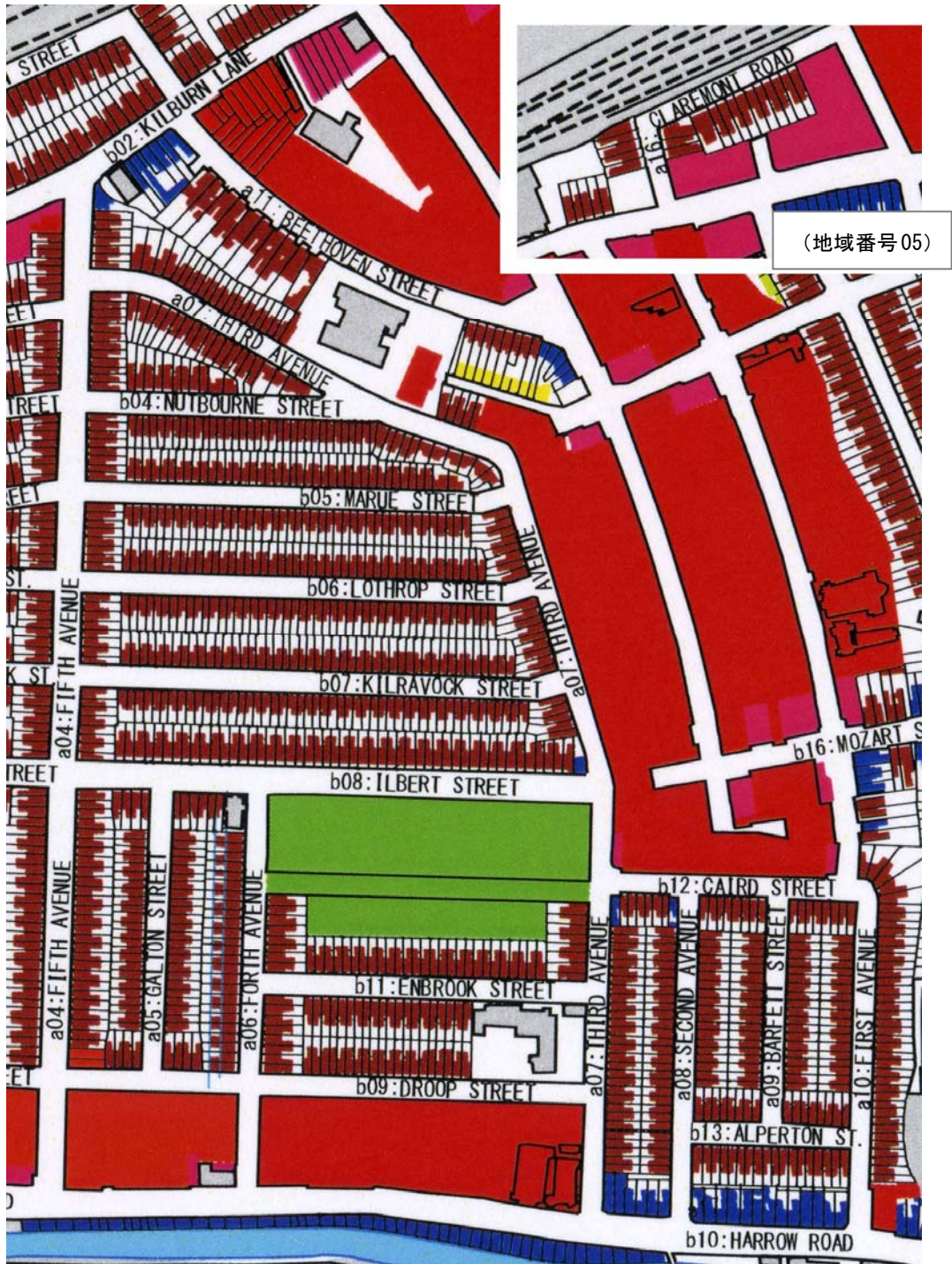


図-03b: 調査対象地区 (地域番号 02・地域番号 05) 詳細



図-03c : 調査対象地区 (地域番号 03 北部) 詳細

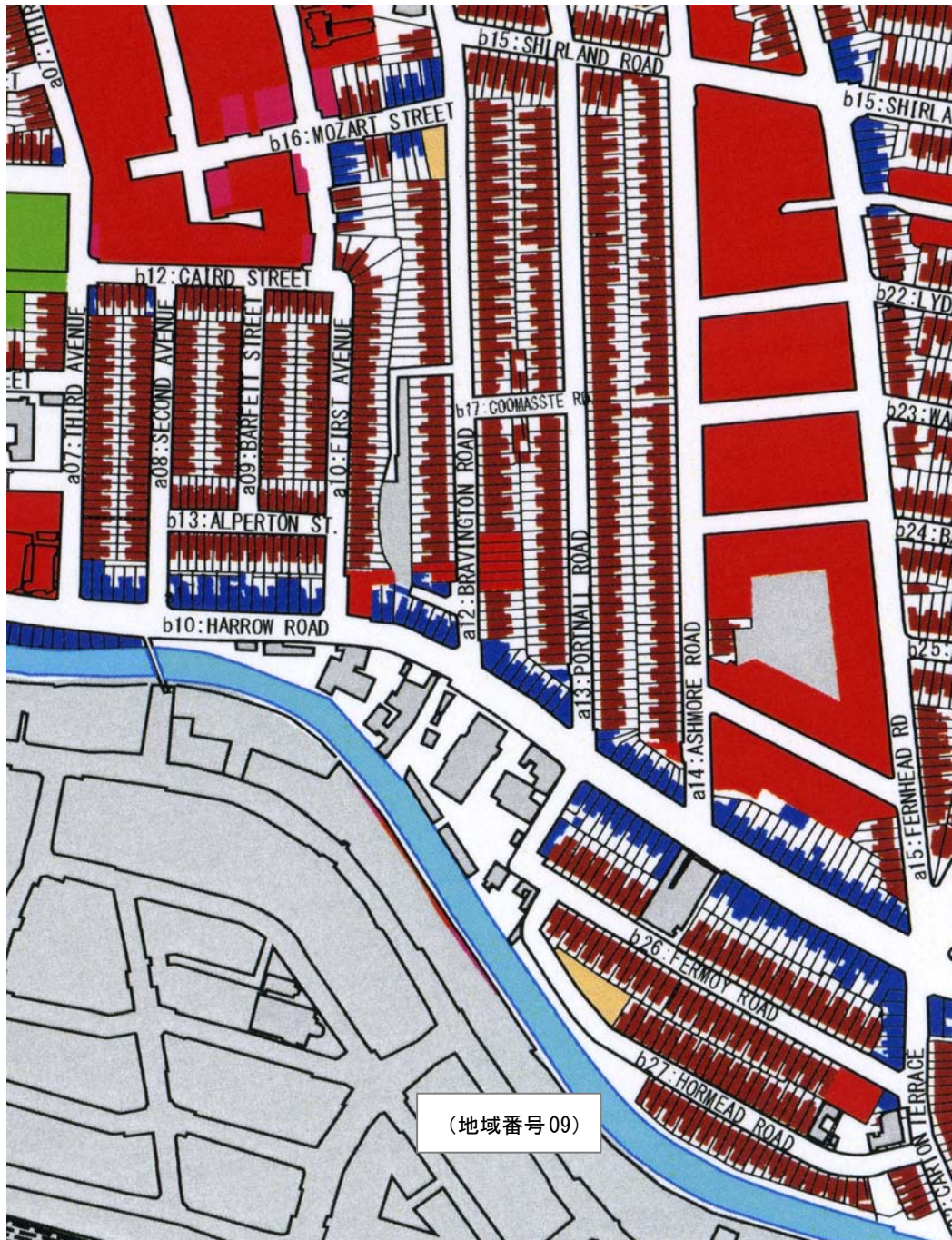


図-03d: 調査対象地区 (地域番号 03 南部・地域番号 09) 詳細

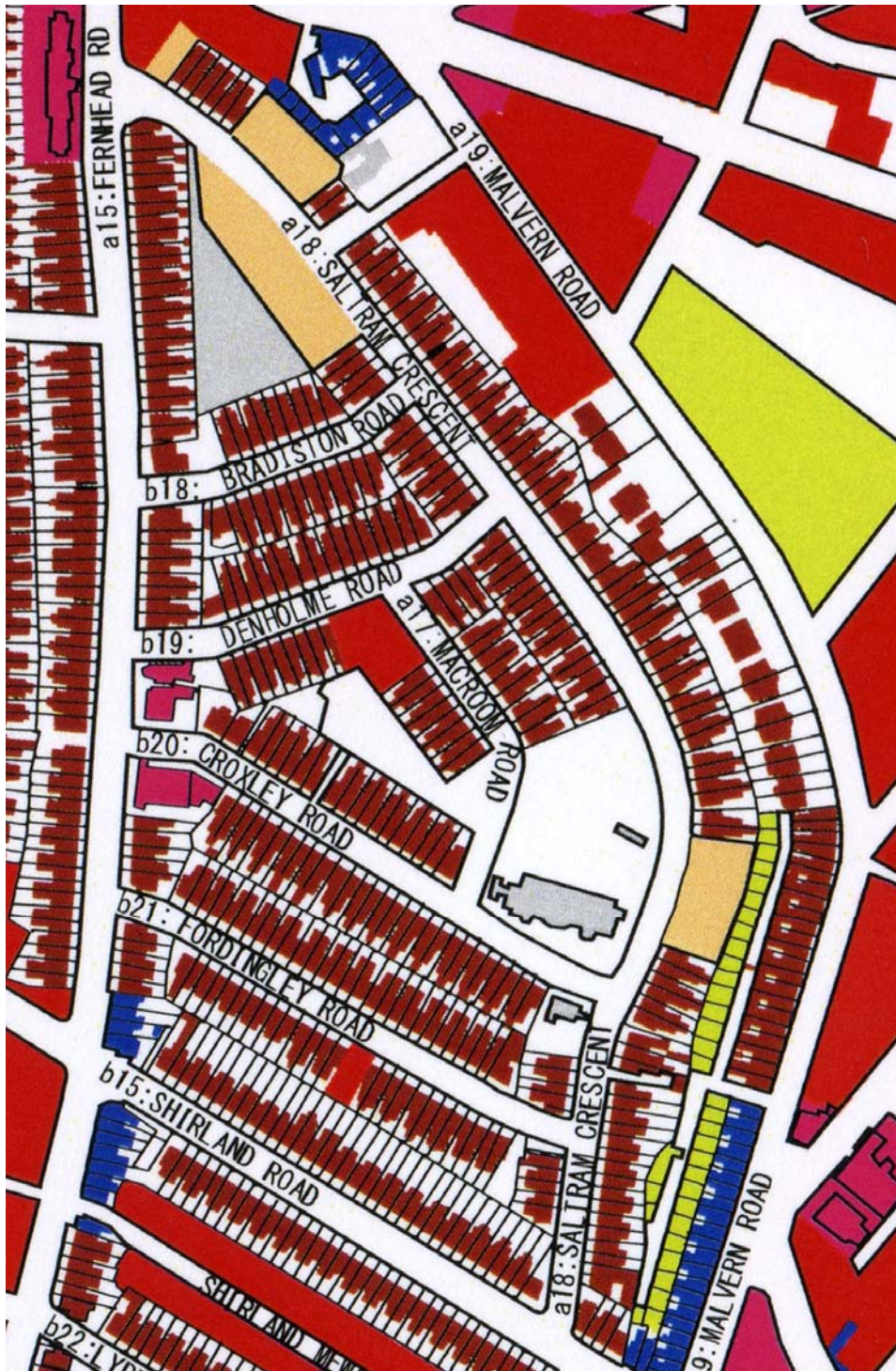


図-03e : 調査対象地区 (地域番号 04 北部) 詳細

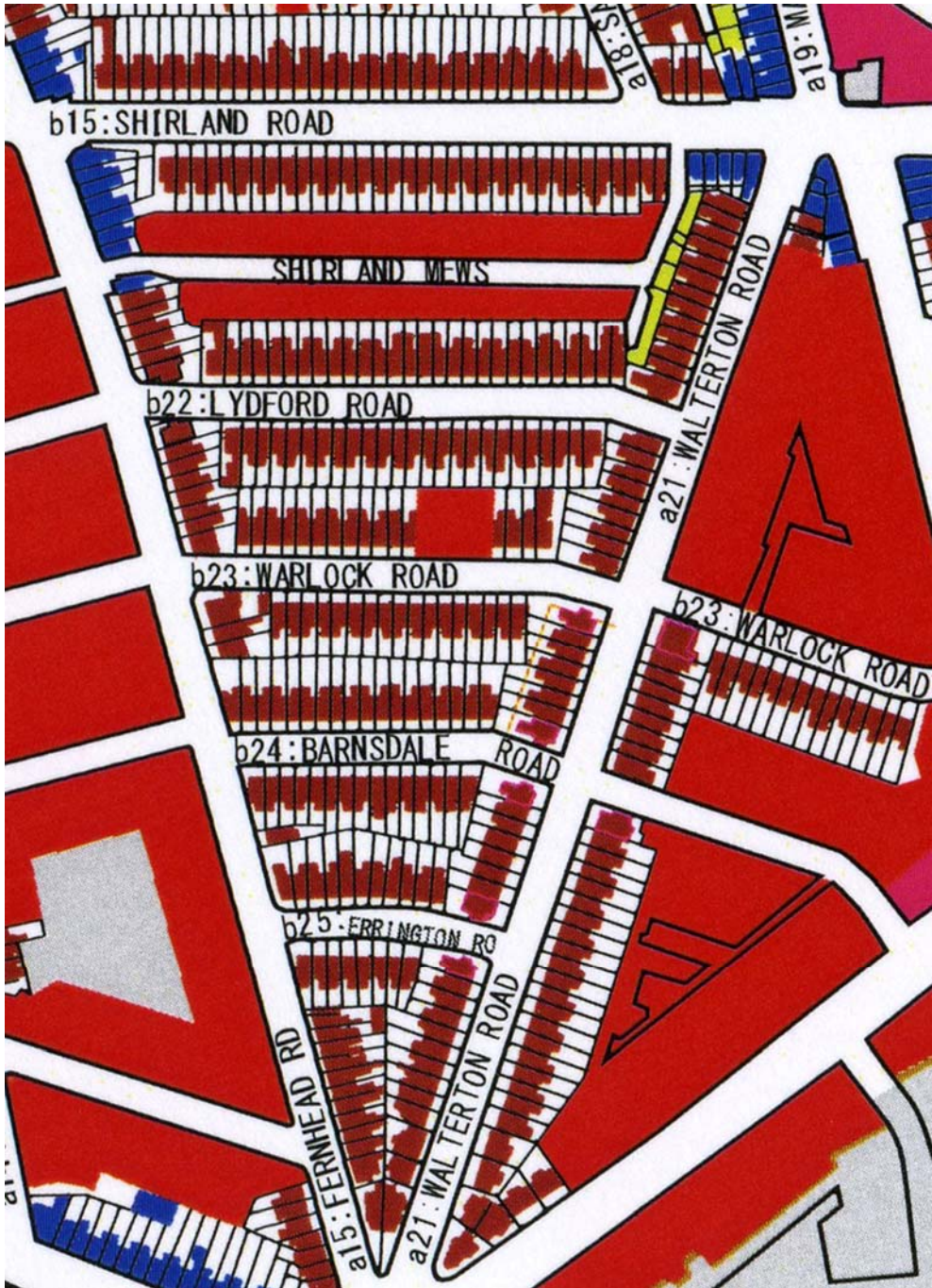
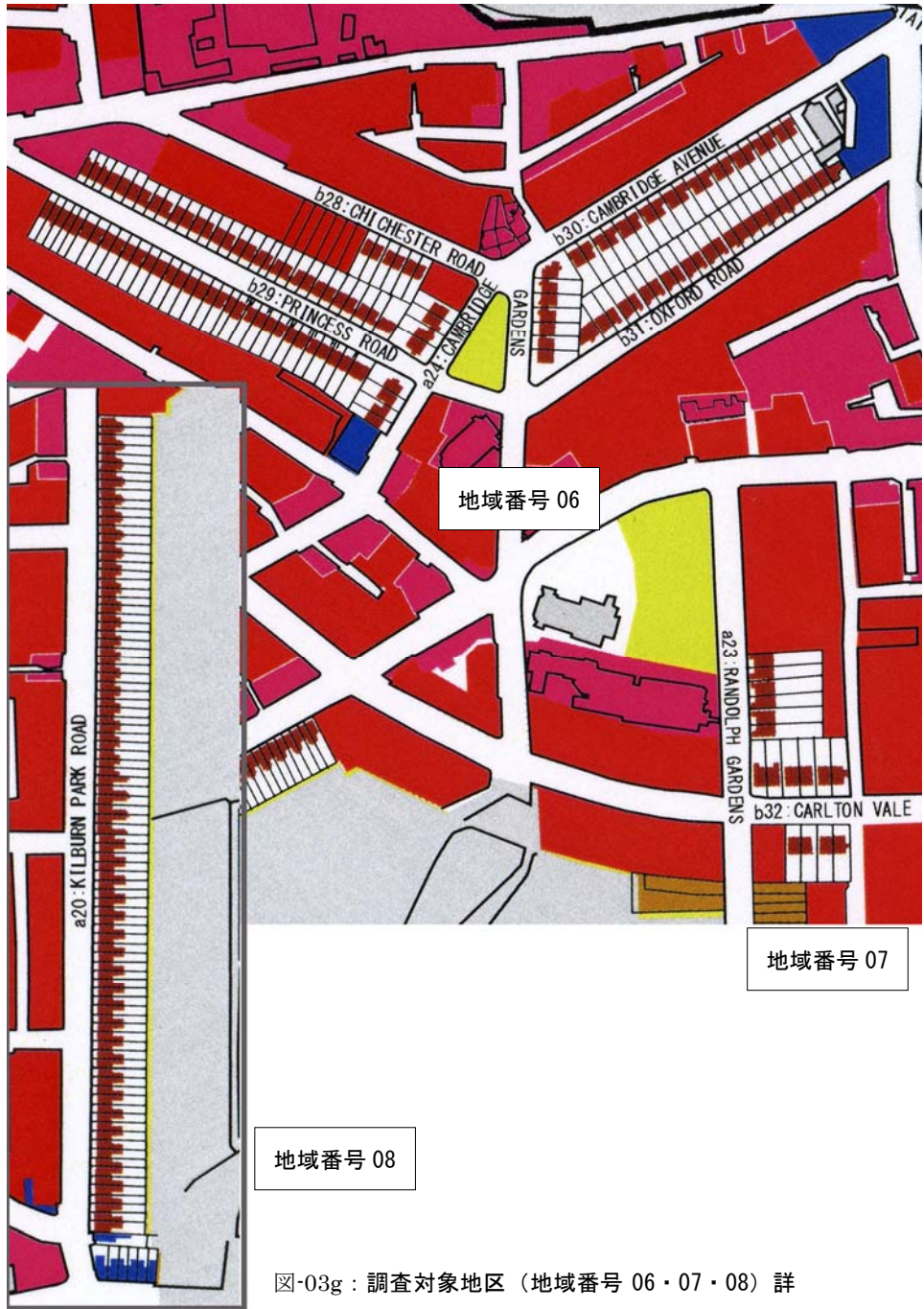


図-03f: 調査対象地区 (地域番号 04 南部)



ここに描かれた建物の現在の様子を記録して回るというものである。はじめに地図に描かれた建物が現存するかをチェックすることからはじめ、次に建物自体の細部観察へと入る。そのために街路名

称、住戸番地、玄関の形、壁の色、屋根の形等が記入できる調査用紙を作成し、地図を基に対象地区を歩き、各項目をチェックした後、できるだけ正面から各住戸の写真を撮り、それに基づいて概略立面図を作成し家並み構成等を検討する。なお、一々立ち止まってカメラを向けると拒否反応を示す住人がいることと効率的に調査を進めるために、今回は一部ビデオカメラを使用した。

3. 研究方法

研究方法も基本的には前回の方法を踏襲し、各住戸の接続の仕方、並べ方そして全体としての構成について研究をすすめた。そのために家並の立面図を描くことからはじめた。立面図を描くに当たっては、家並構成を見るという目的を明確にするために必要な要素に絞って描くこととした。具体的には以下のような基準を作成し、それに基づき細部の装飾を取り除き、できるだけ概念化（記号化）した形で対象を描いた。また周囲の街区との関係性を見るために住戸の特徴を記号化して平面に配置した図を作成した。

- ・各住戸の間口は一律とし各戸の相違は考慮しない。（ただし、同一タイプで1戸のみ異なる場合などは別とする。）
- ・階高は各階毎に一定とする。
- ・玄関を除き開口部は描写しない。（ゲート状に通り抜けと成っている場合等はその都度考慮する。）
- ・ヴァルコニー、玄関への階段（BASEMENTがある場合）、BAY WINDOW、BOW WINDOW等は記号化して描く。
- ・軒のどる形か、パラペット形かの別を記号化して描く。
- ・玄関の形の別はポーチ形式、張り出し庇、これらの無いものを描き分ける。
- ・戸境壁は表面にでてこない場合でも住戸単位を明確にするために破線で描写する。

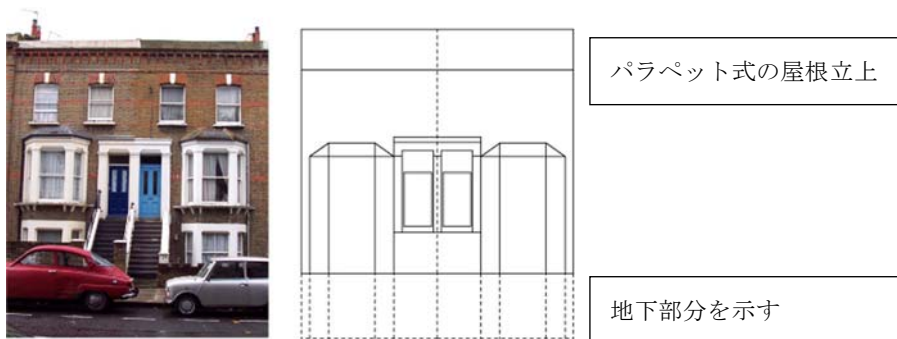


図-04：家並立面作成基準を適用した立面図の例

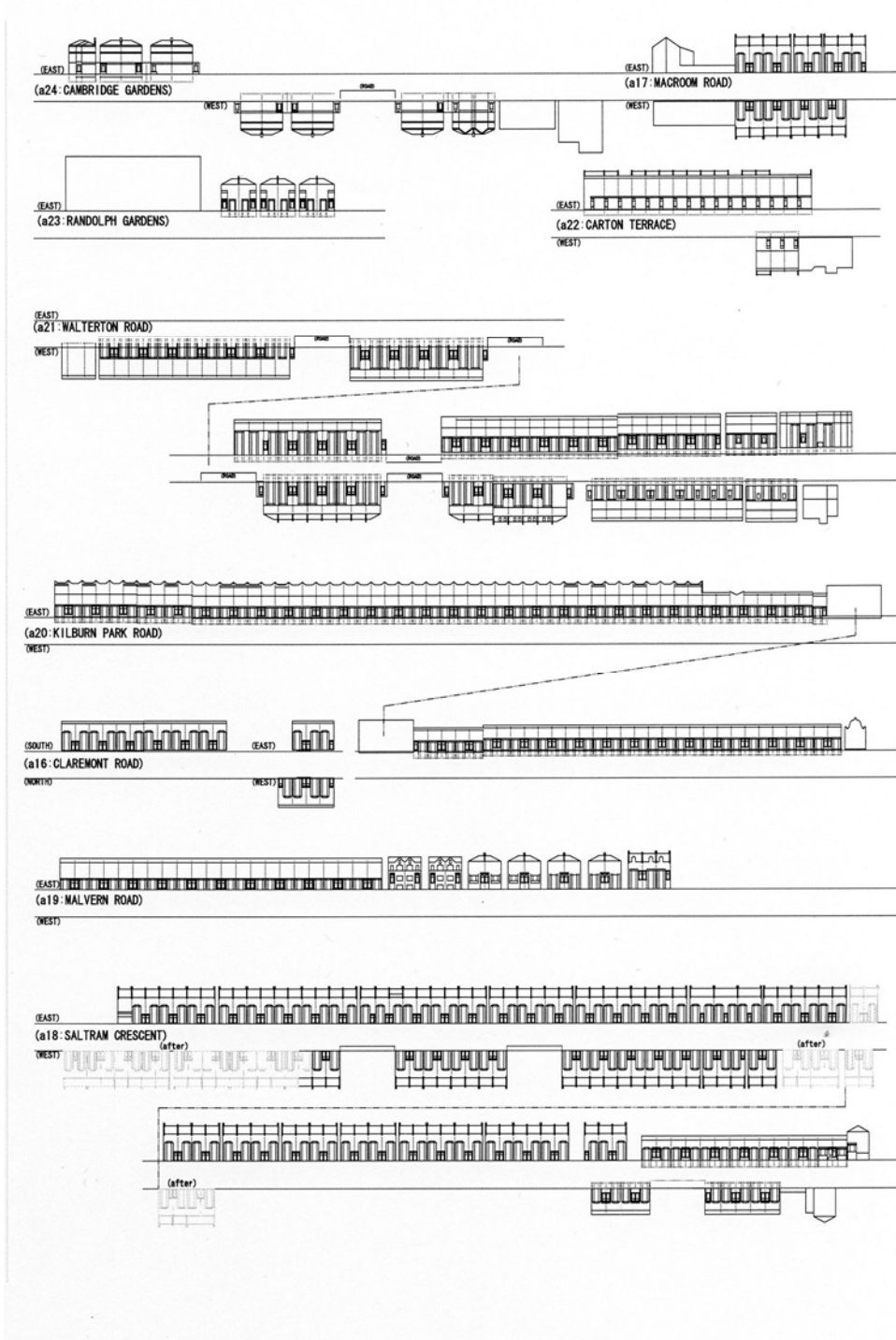


図-05: 家並み立面図_01

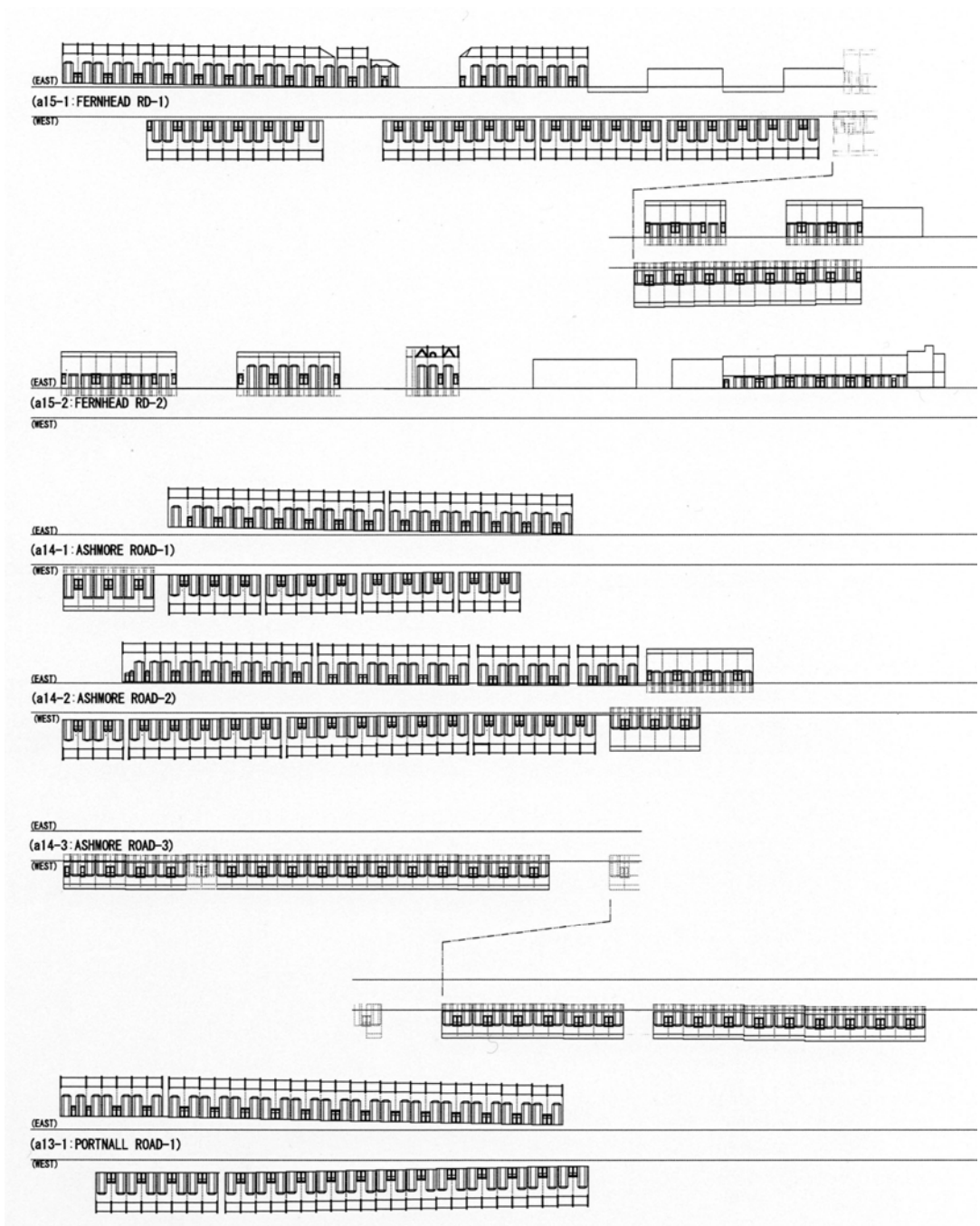


図-06: 家並み立面図_02

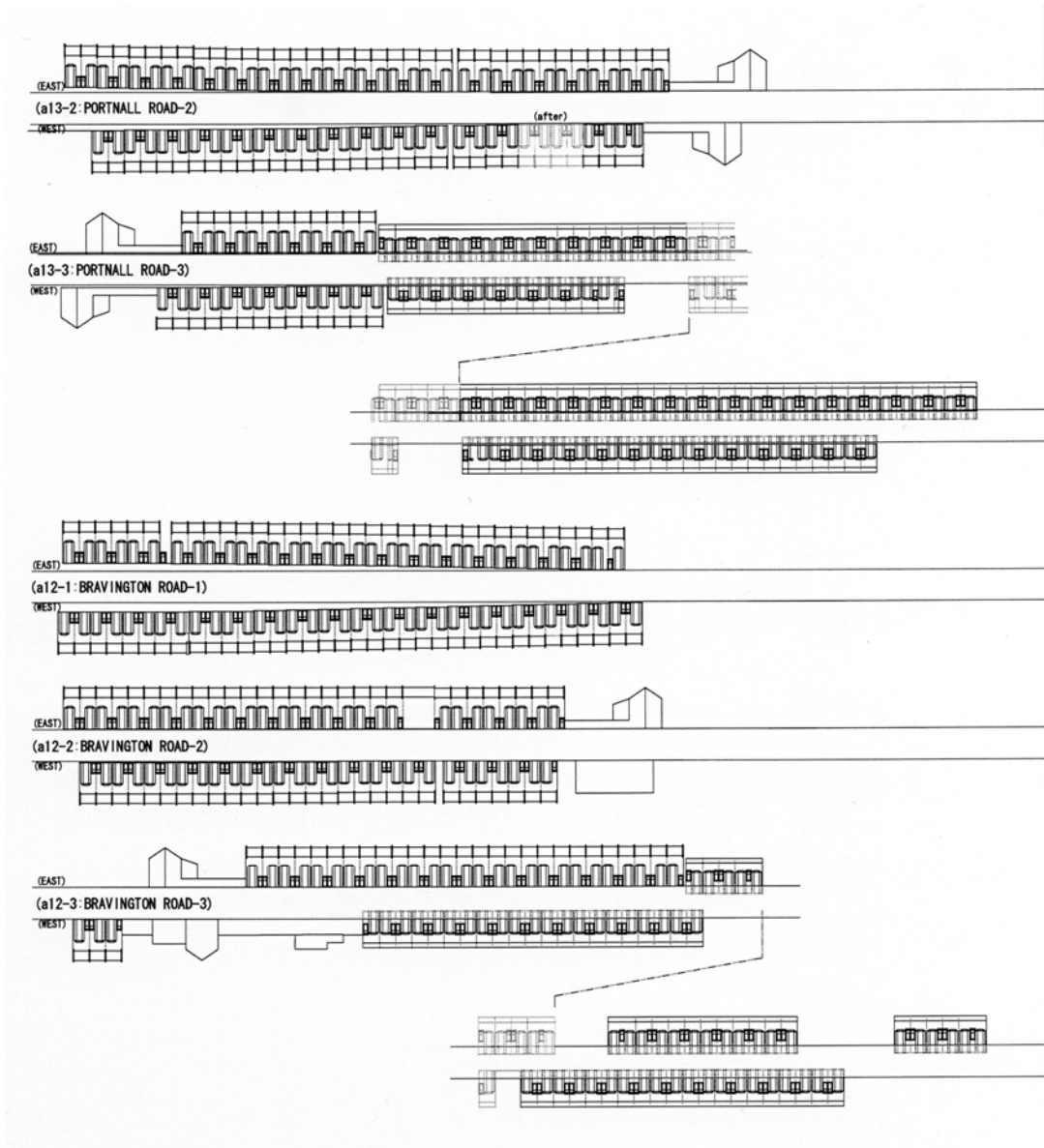


図-07: 家並み立面図_03

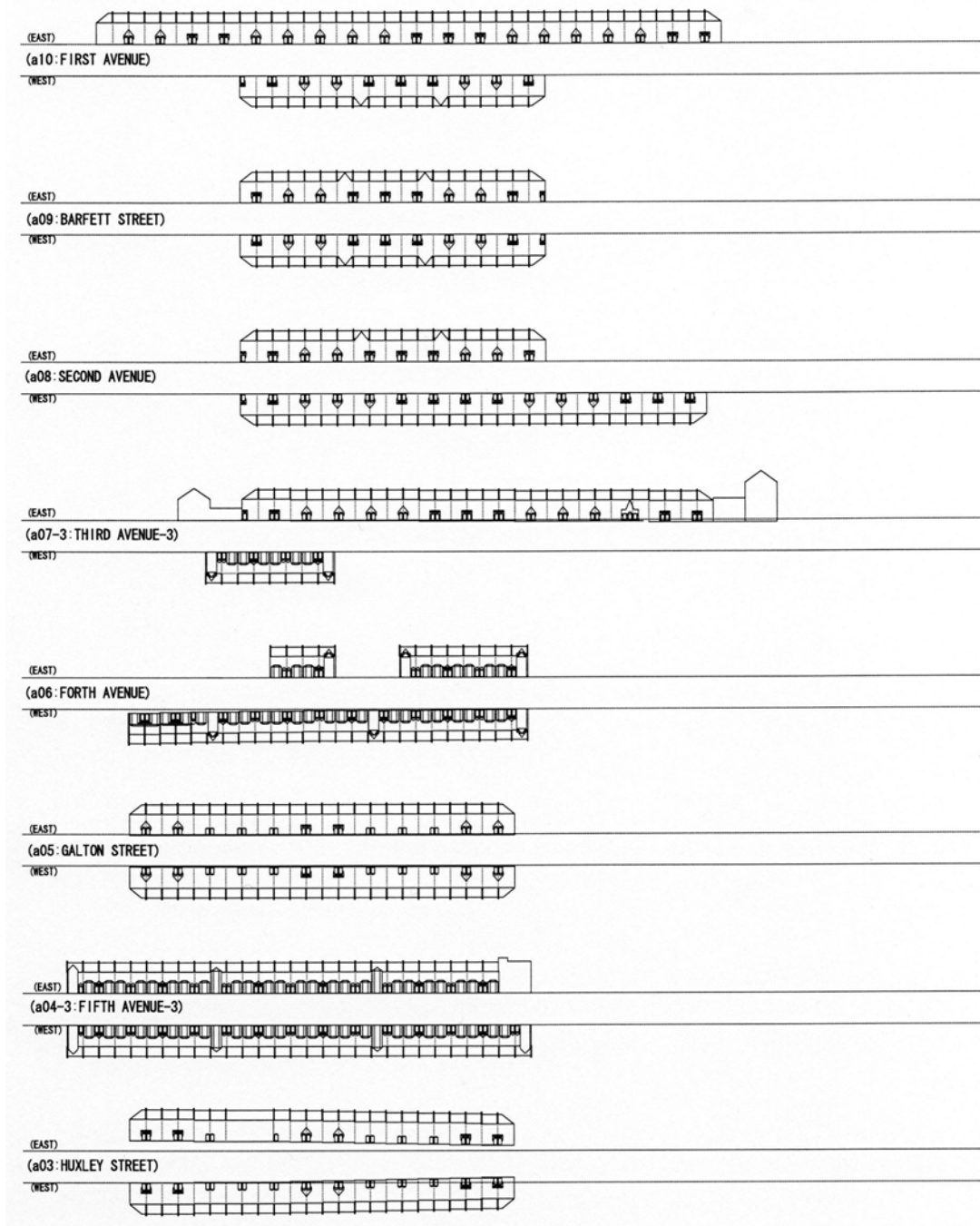


図-08: 家並み立面図_04

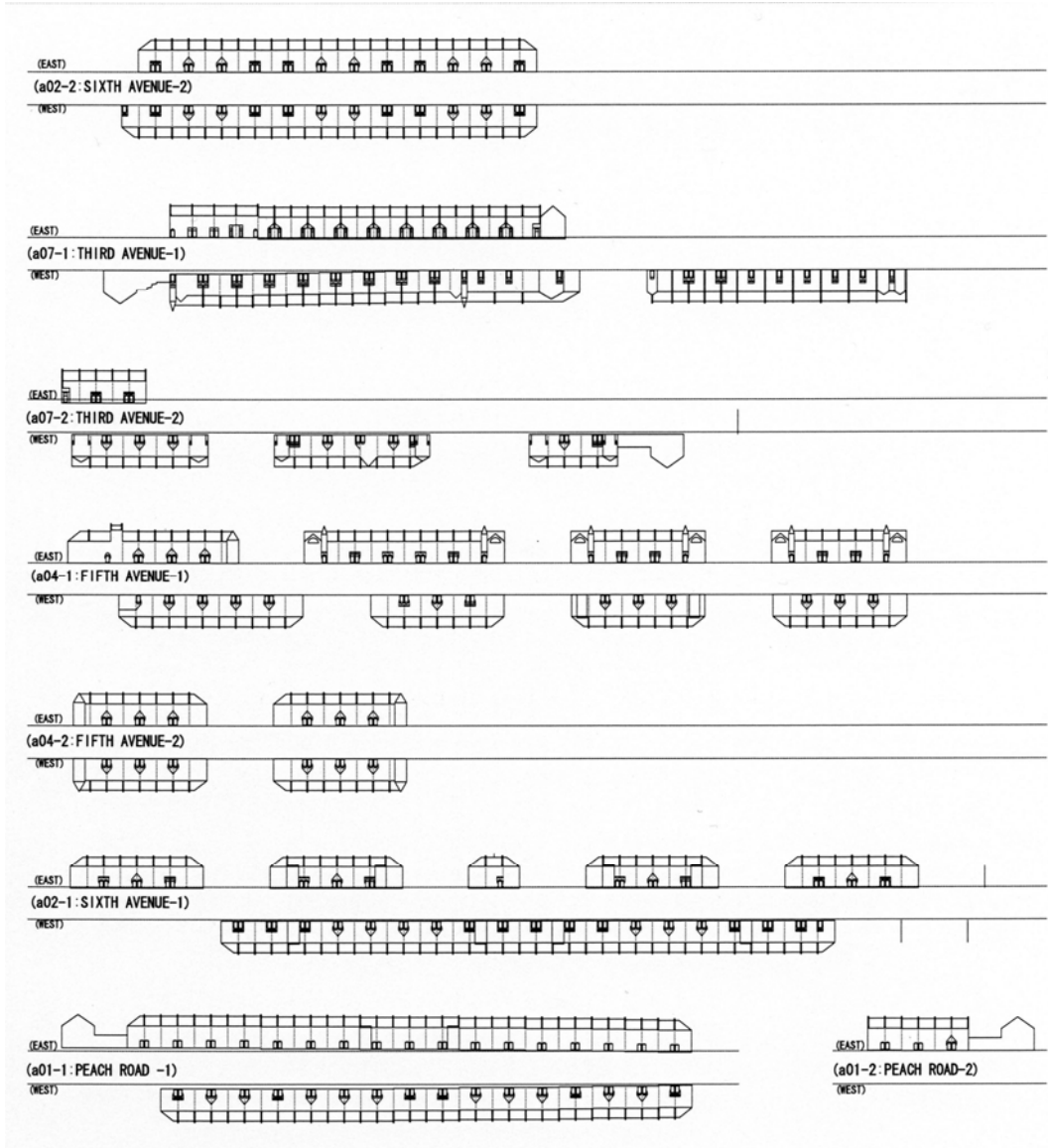


図-09: 家並み立面図_05

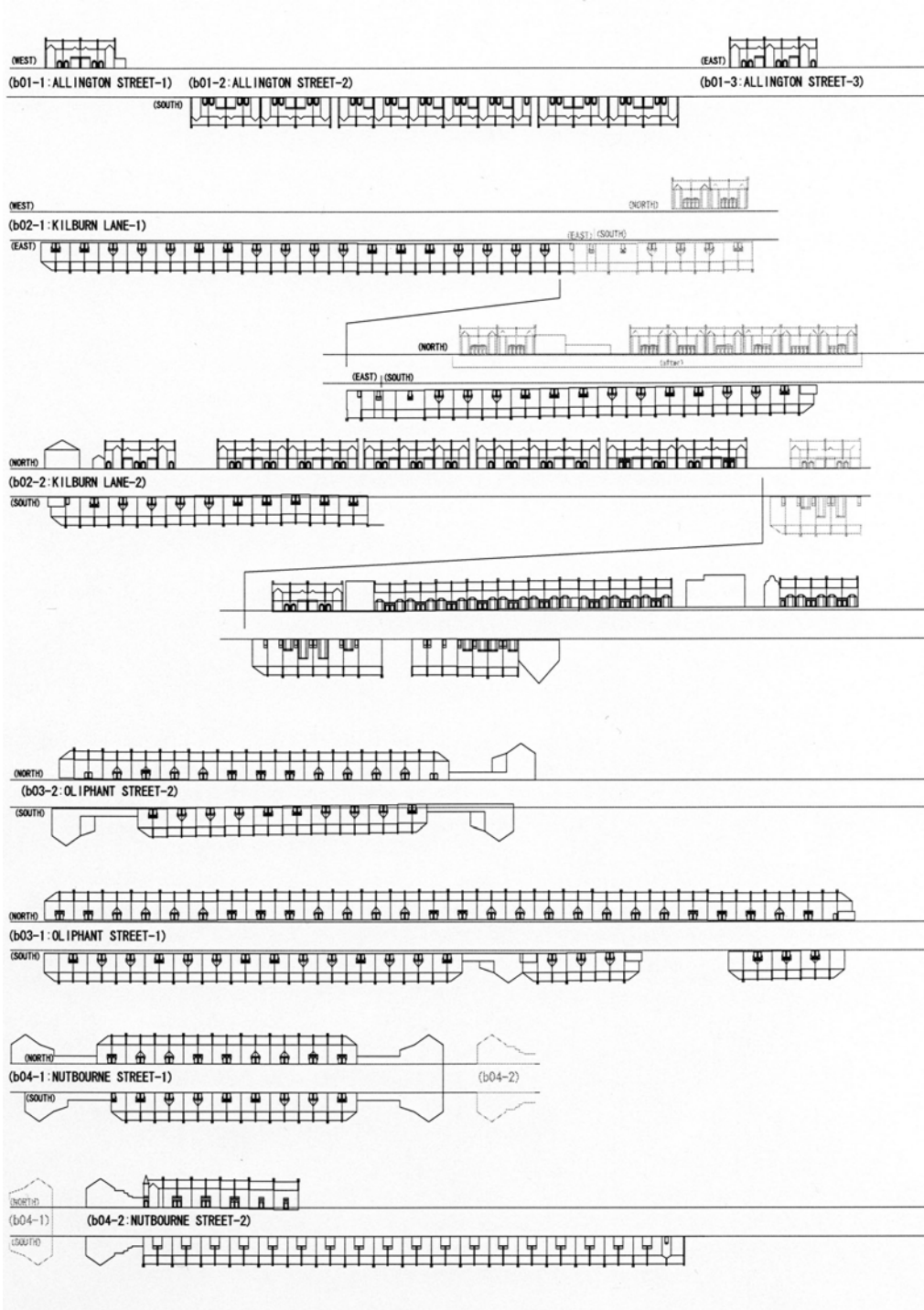


図-10: 家並み立面図_06

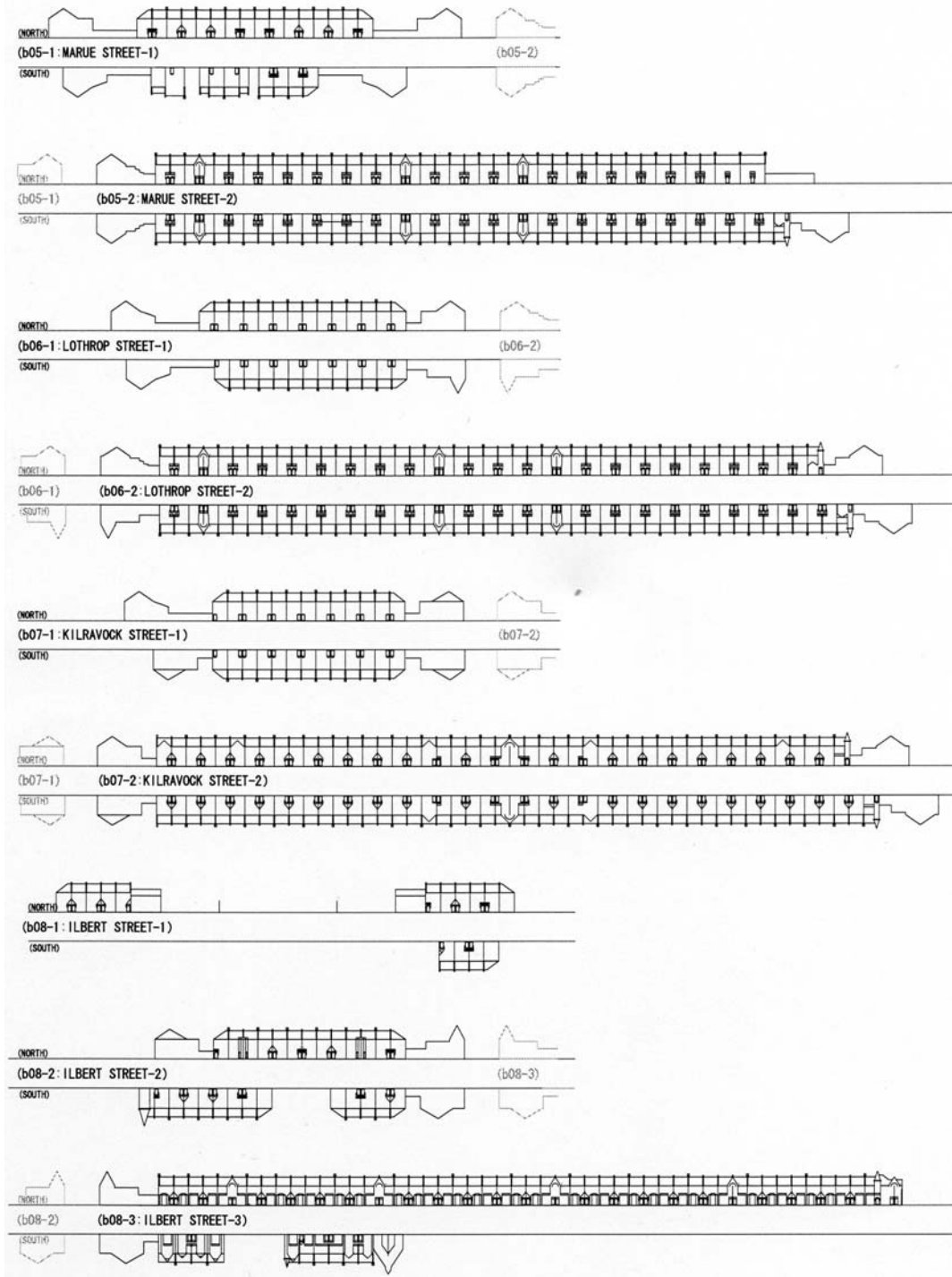


図-11: 家並み立面図_07

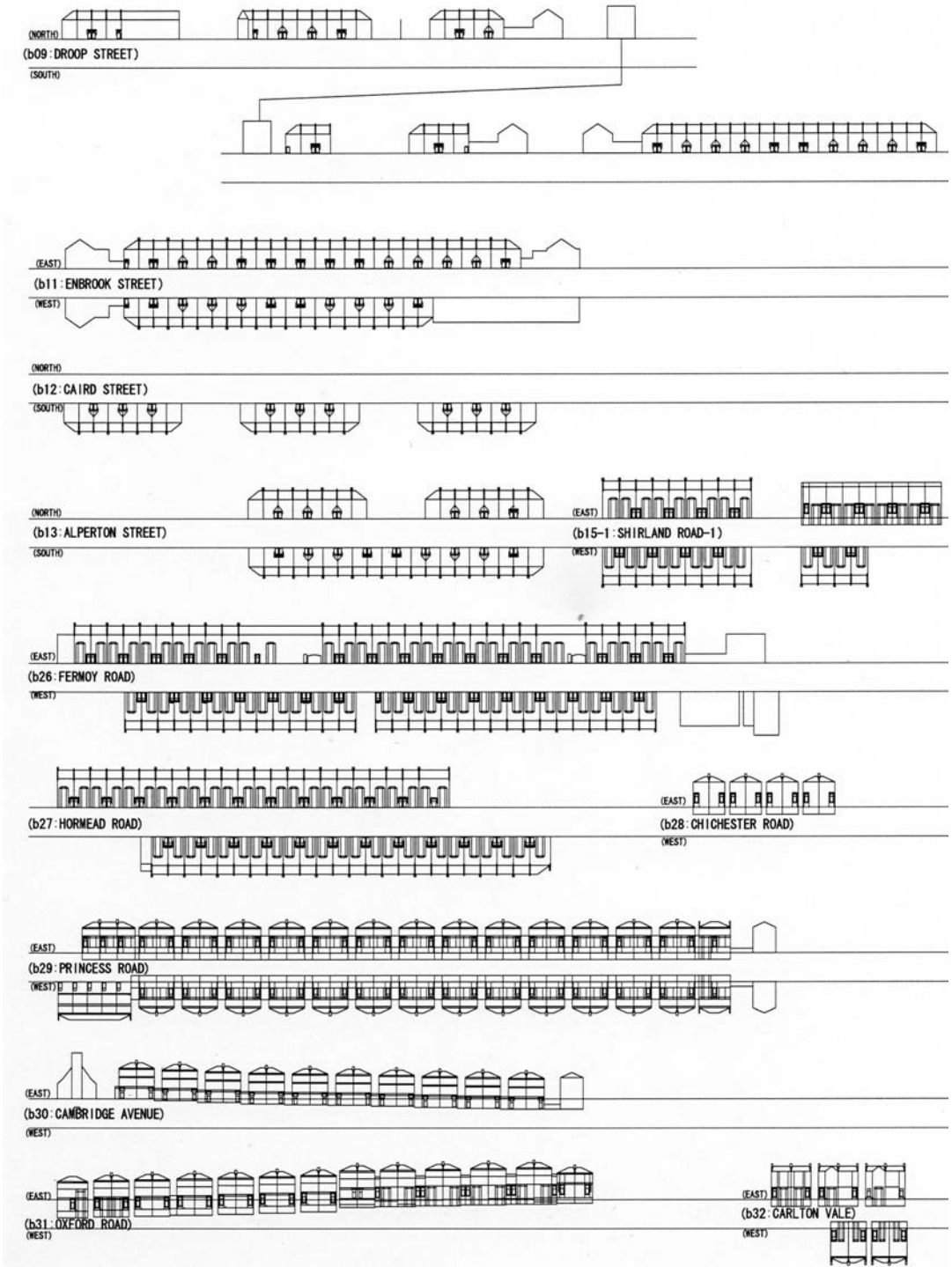


図-12: 家並み立面図_08



図-13: 家並み立面図_09

4. 家並みの分類

① 家並みの構成単位

家並みの構成単位の分類は前回は踏襲して以下のようにした。

(a). 同じ向きで単に並べていくもの — 2家並。

今回の例では CARTON TERRACE (E)&(W) (a22 / 図-05)等にみられた。これは玄関が片側に寄った形式の住戸が対象形の組み合わせを持たずに単独で並ぶ家並みである。この他いわゆるダブル・フロント形式のものが2~3戸並ぶものも2~3見られたが、これは(a)の分類には含まなかった。

(b). 鏡映しの2戸を組み合わせたもの — 18家並。

今回の例では BARFETT STREET (E)&(W) (a09 / 図-08)等にみられた。TERRACED HOUSEの構成単位としてはもっとも基本的な形である。

(c). 鏡映しの2戸を組み合わせて意味の感じられる別の形を成すもの — 8家並。

今回の例では ALLINGTON STREET -1, 2, 3 (E)&(W)&(S) (b01 / 図-10)等にみられた。

(d). (b)と(c)を組み合わせて更に大きなパターンをなすもの — 8家並。

今回の例では ILBERT STREET -3 (N)&(S) (b08-3 / 図-11)等にみられた。

(e). (b)または複数の(b)と別の1戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの — 15家並。

今回の例では LOTHROP STREET -2 (N)&(S) (b06-2/ 図-11)等にみられた。

(f). (b)または複数の(b)と別の複数戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの — 0家並。
今回はみられなかった。

以上6つの分類のうち5つの傾向が見られる。表-01は地域ごとにそれをまとめたものである。(a)や(b)のみで構成される家並みは概して単調なものとなる傾向にあるが、大多数が単調な家並みであることが判る。その中で01、02地域が興味深い傾向を示している。家並み立面図と併せて見るとこの地域では家並み全体で1つの大きな建物を意図する傾向が強いことが判る。06と08地域の(c)はセミデタッチド形式であり、2住戸で構成された単位が完結していて形態的發展性は乏しく、家並みの景観上の傾向としては(a)や(b)と同様の単調なものである。09地域でみられた(a)タイプは今回の調査地域では唯一のものである。本来余り多くなくFluham地区でも2例しかなかった。またバルコニーの付いたこのデザインは私もBRISTLで見かけたことはあるがロンドンで見るのは初めてであった。

表-02は前回のFluham地区との比較である。家並み構成単位については(b)の鏡写しの2戸を組み合わせたものが両地区とも大多数を占めている。Kensal Green地区の特色としては(d)タイプが6%(Fluhamでは3%)、(e)タイプが11%(Fluhamでは4%)と2倍以上の差がみられたことである。

表-01：家並み構成単位 地域間の比較

構成単位型	a	b	c	d	e	f
01	0	20	3	6	9	0
	0%	53%	8%	16%	24%	0%
02	0	20	0	2	6	0
	0%	71%	0%	7%	21%	0%
03	0	23	0	0	0	0
	0%	100%	0%	0%	0%	0%
04	0	26	0	0	0	0
	0%	100%	0%	0%	0%	0%
05	0	2	0	0	0	0
	0%	100%	0%	0%	0%	0%
06	0	2	5	0	0	0
	0%	29%	71%	0%	0%	0%
07	0	2	1	0	0	0
	0%	67%	33%	0%	0%	0%
08	0	1	0	0	0	0
	0%	100%	0%	0%	0%	0%
09	2	4	0	0	0	0
	33%	67%	0%	0%	0%	0%

表-02：家並み構成単位 FULHAM 地区と KENSAL GREEN 地区の比較

構成単位型	a	b	c	d	e	f
FULHAM 地区	7	117	14	5	6	4
	5%	76%	9%	3%	4%	3%
KENSAL GREEN 地区	2	100	9	8	15	0
	1%	75%	7%	6%	11%	0%

② 一連の家並みに用いられる立面デザインの種類

1つの家並みに何種類の立面デザインが用いられているのかをみたのが表-03、04である。1から3種類を用いているものが9割を占めている。一番多くの種類を用いていたのは6種類で OXFORD

ROAD (N) (b32/ 図-12)と WALTERTON ROAD (W) (a21/ 図-05)がそれに該当している。OXFORD ROAD は一連の家並であるが2つの主要な家並で構成されその2つをつなぐ位置と両端に少し異なった住戸デザインを採用している。WALTERTON ROAD は長い通りで途中幾つかの交差する通りで分割されており基本的には分割されたところでデザインを変えていることがこの結果となっている他、一連の家並でも数種のデザインを用いている街区もある。

表-03：一連の家並みに用いられる立面デザインの種類 地域間の比較

種類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
01	4	21	6	3	3	0	0	0	0	0
	11%	57%	16%	8%	8%	0%	0%	0%	0%	0%
02	1	7	16	3	1	0	0	0	0	0
	4%	25%	57%	11%	4%	0%	0%	0%	0%	0%
03	12	7	4	0	0	0	0	0	0	0
	52%	30%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
04	17	4	2	0	1	1	0	0	0	0
	68%	16%	8%	0%	4%	4%	0%	0%	0%	0%
05	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
06	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0
	29%	29%	29%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	0%
07	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	33%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
08	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
09	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	67%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

表-03 は地域別にそれを見たものであるが、ここでも 01 と 02 地域が変化に富んでいることがみてとれる。その他にも多くのデザインを用いている家並みも見られるので少し詳しく見ていくことにする。

03 地域は 1 種類で構成される家並みが半数を越えるが、2 種類 3 種類のデザインを用いた家並

表-04：一連の家並みに用いられる立面デザインの種類

FULHAM 地区と KENSAL GREEN 地区の比較

種類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
FULHAM 地区	97	38	14	4	0	0	0	2	1	0
	62%	24%	9%	3%	0%	0%	0%	1%	1%	0%
KENSAL GREEN 地区	45	44	31	6	5	2	0	0	0	0
	34%	33%	23%	5%	4%	2%	0%	0%	0%	0%

みもかなりある。しかしその内容は敷地を2分割し、傾斜屋根型とパラペット型を分けて配置するものであり、その玄関ポーチの形を変える程度の変化であり家並みとして魅力的な構成となっていない。

04 地域で5種類、6種類を用いているのは MALVERN ROAD (a-19 図-05)と WALTERTON ROAD (a-21 図-05)である。MALVERN ROAD にはセミデタッチドが立ち並ぶ部分があり、6件ある建物がそれぞれ別のデザインを採用していることがその原因であり、TERRACED HOUSE の建つ部分では1種類である。WALTERTON ROAD も基本的には複数に分割した敷地にそれぞれ異なったデザインの住戸を並べたもので全体としての形態的意図は感じられない。

06 地域で6種類用いているのは OXFORD ROAD (b-31 図-12)である。ここはセミデタッチド形式と擬セミデタッチド形式で構成されており、それぞれの家並みの端部に異なったデザインの住戸が付くことでこのような結果となっている。

その他では09 地域で2種類を用いた家並みが2つあげられているが、これは玄関ポーチの装飾部分が劣化し脱落したもので本来は1種類と思われるが、現状を基準とした。同類のものは08 地域の KILBURV PARK ROAD (a-20 図-05)にもみられる。

③ 家並みの全体構成

次に全体の構成を見ていくと

(ア). (a)または(b)など単一のパターンを連続させるもの — 63家並。

今回の例では ILBERT STREET -1 (N)&(S) (b08-1 / 図-11)にみられた。

(イ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(それぞれの群は通りで分節されている) — 22家並。

今回の例では PRINCESS ROAD (N)&(S) (b29 / 図-12)にみられた。

(ウ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(通り等による分節なし) — 14家並。

今回の例では DROOP STREET (N) (b09 / 図-12) にみられた。

(エ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べることで家並にリズムを生み出すものや一つの形を成すもの - 4家並。

今回の例では FIRST AVENUE (E) (a10/ 図-08) にみられた。

(オ). 同一デザインで構成される家並を数区に分け分節点に別のパターンを配するもの - 20家並。

今回の例では ILBERT STREET -3 (N)&(S) (b08-3 / 図-11) にみられた。

(カ). 同一デザインで構成される家並を数区に分け分節点に別のパターンを配し、全体として象徴的な形態を形作るもの - 9家並。

今回の例では ILBERT STREET -2 (N)&(S) (b08-2 / 図-11) にみられた。

(キ). 複数の住戸で象徴的な形態を作りそれを連続して配置するもの - 2家並。

今回の例では ALLINGTON STREET -2 (S) (b01 / 図-10) にみられた。

の7つの傾向が見られる。それぞれの都市景観造りに果たす役割を思うと極論を言えば、(ア)、(イ)、(ウ) は単に住戸を並べ、戸境壁を共有することで土地の効率的な利用を主目的にしているといえよう。また、(エ) や (オ) は街路に面して建てられること、つまり視点の移動を意識したデザインがされているといえよう。さらに (カ) と (キ) は道路という引きの取れない所に建つため現実には不可能であるが Inigo Johnes の提案を継承したデザイン (小さな住戸を集めて宮殿のような立派な建築に仕立てる) であるといえよう。

(ア)、(イ)、(ウ) を合わせると約7割となるが、これは上述したように都市景観構成の点からは望ましい方法とは言えないが、狭い道路を挟んで建ち全体を眺める視点を確保しえないという立地条件からの必然ともいえようか。そのような中で今回 (オ) や (カ) のような全体を考えた構成が 22%あったことは Fulham 地区には見られなかった特長である。

表-06 : 家並み全体構成 FULHAM 地区と KENSAL GREEN 地区の比較

全体構成型	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
FULHAM 地区	108	7	32	5	0	0	0
	71%	5%	21%	3%	0%	0%	0%
KENSAL GREEN 地区	63	22	14	4	20	9	2
	47%	16%	10%	3%	15%	7%	1%

表-05：家並み全体構成 地域間の比較

全体構成型	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
01	17	0	6	0	11	2	2
	45%	0%	16%	0%	29%	5%	5%
02	7	0	2	4	9	6	0
	25%	0%	7%	14%	32%	21%	0%
03	12	8	3	0	0	0	0
	52%	35%	13%	0%	0%	0%	0%
04	18	5	2	0	0	0	0
	72%	20%	8%	0%	0%	0%	0%
05	3	0	0	0	0	0	0
	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
06	0	7	0	0	0	0	0
	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
07	0	2	1	0	0	0	0
	0%	67%	33%	0%	0%	0%	0%
08	0	0	1	0	0	0	0
	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%
09	6	0	0	0	0	0	0
	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

④ 街路両側の家並みの関係

さて、最後にこれらの家並みは道路に沿って建つわけである。以上はそれぞれの家並み単独での状態を見てきたが、道路の両側に立ち並ぶ家並みの関係をみてみることにする。

(0). シンメトリーを感じるもの — 10家並 (構成単位が部分的に異なるものも含む)。

今回の例では LOTHROP STREET -2 (N)&(S) (b06-2/ 図-11)にみられた。

(1). 単位の並び方が同じ — 0 街路

今回はみられなかった。

(2). 同じ並び型であるが順序が逆である — 1 街路

今回の例では NUTBOURNE STREET -2 (N)&(S) (b04-2 / 図-10)にみられた。

(3). 同じ構成単位であるが並べ方には関係性が見られない — 31 街路

今回の例では BRAVINGTON ROAD -3 (E)&(W) (a12-3 / 図-07)にみられた。

(4). 構成単位も異なり、関係性は見られない — 20 街路

今回の例では FIRST AVENUE (E) (a10/ 図-08) にみられた。

地区全体としては(3)と(4)が圧倒的に多い。これは住戸を1つの単位として単に並べることが意味するが、地域別に見ていくと 01 地域 (39%)、02 地域 (29%)、06 地域 (50%) がシンメトリーな関係であることが際立っている。

また Fluham 地区との比較では (0) のシンメトリーな関係を成すものが 20%と 2 倍近く多いことと (1) の単位の並び方が同じが、まったく無かったことが特質として挙げられる。

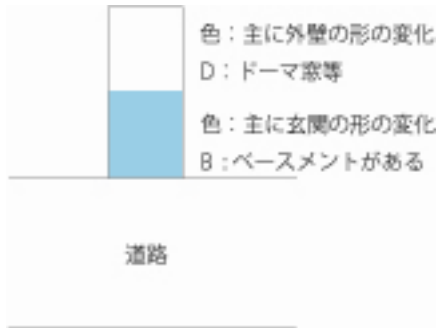
表-07：街路両側の家並みの関係 地域間の比較

両側関係型	0	1	2	3	4
01	7	0	0	4	7
	39%	0%	0%	22%	39%
02	4	0	1	3	6
	29%	0%	7%	21%	43%
03	0	0	0	10	2
	0%	0%	0%	83%	17%
04	0	0	0	10	3
	0%	0%	0%	77%	23%
05	1	0	0	0	1
	50%	0%	0%	0%	50%
06	1	0	0	1	0
	50%	0%	0%	50%	0%
07	0	0	0	0	1
	0%	0%	0%	0%	100%
08	0	0	0	0	0
	####	####	####	####	####
09	0	0	0	3	0
	0%	0%	0%	100%	0%

表-08：街路両側の家並みの関係 FLUHAM 地区と KENSAL GREEN 地区の比較

両側関係型	0	1	2	3	4
FLUHAM 地区	10	30	0	4	44
	11%	34%	0%	5%	50%
KENSAL GREEN 地区	13	0	1	31	20
	20%	0%	2%	48%	31%

5. 家並デザインと周辺街区との関係



家並と周辺街区との関係を見るために図-14 から図-19 に示すような「家並み周辺関係分析図」を作成した。なお分析図の凡例は各図に示すとおりであるが、基本的な意味は左の図に示すとおりである。

この資料からは道路を中心とした街づくりの姿が見えてくる。一般に日本の街づくりは街区型（道路に囲まれた内側をひとつのまとまりと考えそこに名称が付与される。住居表示などにそれが良く現れている。）で

あり、欧米のそれは道路型（全ての道路に名称が付与され、住居表示は○通りの○号といったように付けられる。場合によっては目的の道路には着いたものの目当ての番地へ行くにはさらに数キロ行かねばならないこともある。）であるといわれるが、それは住居表示の割り当て方に止まらず、景観形成の面でも強く意図されていることがわかる。

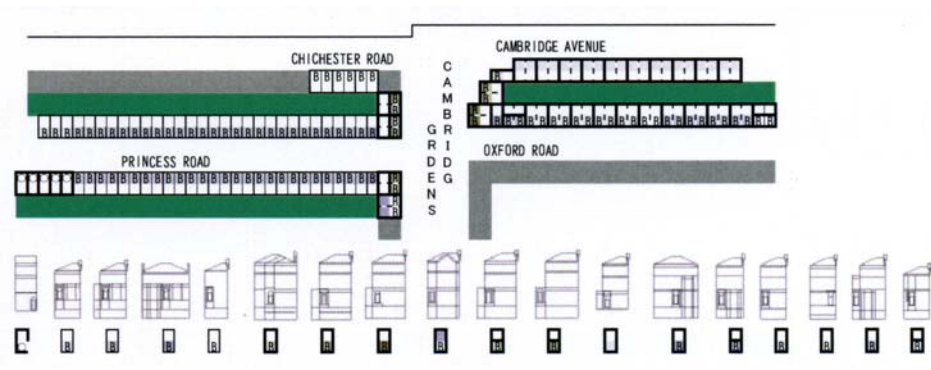


図-19：家並み周辺関係分析図_地域番号_06



图-14：家並み周辺関係分析图_地域番号_01

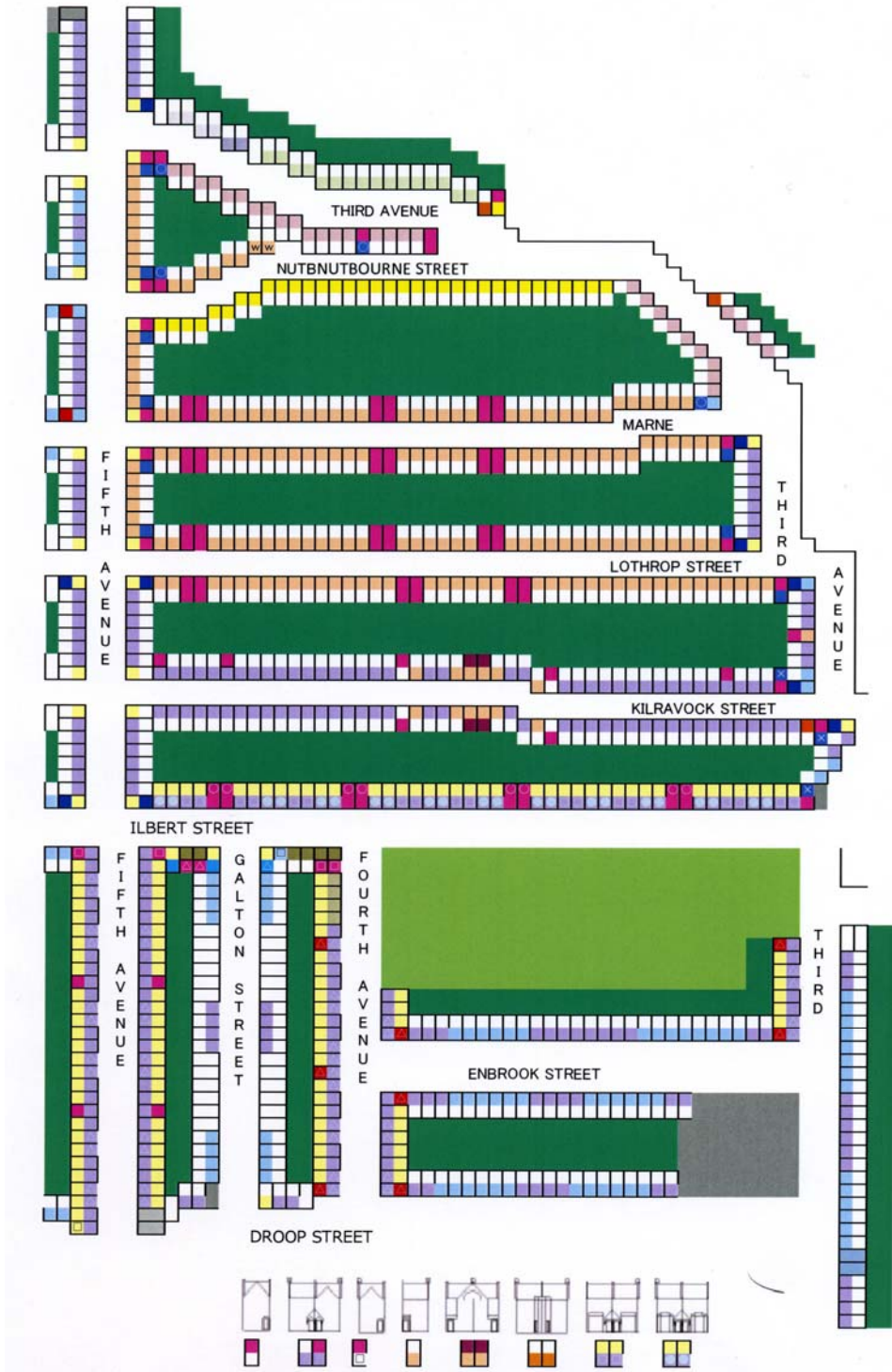


図-15: 家並み周辺関係分析図_地域番号_02



図-16: 家並み周辺関係分析図_地域番号_02, 03, 05, 07

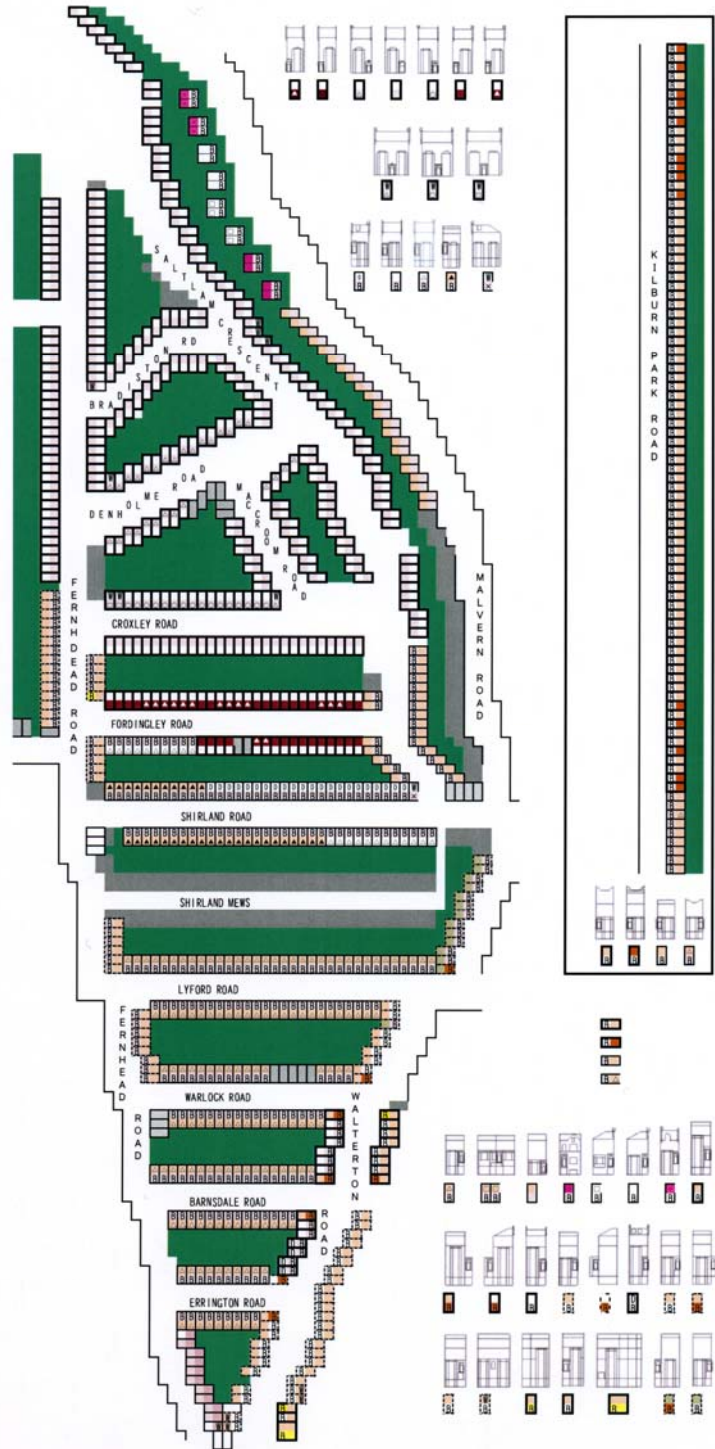


図-17: 家並み周辺関係分析図_地域番号_04、08



図-18: 家並み周辺関係分析図_地域番号_09

6. まとめ

① 調査対象地区の概要

はじめに概要であるが今回調査対象とした KENSAL GREEN 地区は図-02 から明らかなように 50%以上が再開発されていた。再開発の内容は商業地への転化は少なく、ほとんどが新しい形式の集合住宅地である。

図-02 に示した地域区分は説明のために便宜的に分けたものであり特別な意味は無いが、これに従ってそれぞれの地区の概要を見てみることにする。

第 1 地域と第 2 地域それに第 3 地域の南西部分 (ILBERT STREET の南で FOURTH AVENUE の西) はベースメント階を持たない 2 階建てで構成されている。FIFTH AVENUE の西側の地区では基本となるファサードデザインは 3 種類あるがその配置の仕方に一定の法則は見出せない。PEACH ROAD や SIXTH AVENUE、FIFTH AVENUE では家並みのアクセントとなるファサードデザインの住戸が家並み中央を軸とした対象形で配置されている。

FIFTH AVENUE の西側の地区では基本となるファサードデザインは多く 9 種類ある。ここでも家並みのアクセントとなるファサードデザインの住戸が家並み中央を軸とした対象形で配置されている他、通り両側での対象性を意図した家並みが多いこともこの地区の特徴である。

第 3 地区は先に説明した南西部を除けば基本的にはベースメント階を持たない 3 階建て傾斜屋根型 (TERRACED HOUSE の屋根は大きく中央に棟を取り前後に傾斜するものと、前面にパラペットを立ち上げ後方に片流れのものがあり、ここでは前者を傾斜屋根型、後者をパラペット型と表す) とベースメント階付き 2 階建てパラペット型の 2 種類で構成されている。しかも北部に前者、南部に後者と混在することなく分けて配置されている。その分け方が交差する通り等によるのではなく連続する家並みの途中で突然変わる理由は類推する術をもたない。

第 4 地区も大きく見れば北部はベースメント階を持たない 3 階建て傾斜屋根型、南部はベースメント階付き 2 階建てパラペット型の 2 種類で構成されている。但し南部でも WALTERTON ROAD と

FERNHEAD ROAD ではベースメント階付き 3 階建てパラペット型もある。この地区の特徴としては交差道路等で分断される家並みのそれぞれにおいては多くが 1 種類のデザインで統一されていることである。但し SHIRLAND ROAD、FORDINGLEY ROAD や WALTERTON ROAD のような例外もある。

第 5 地区はベースメント階を持たない 3 階建てパラペット型、第 6 区は CAMBRIDGE AVENUE と PRINCESS ROAD の一部を除いてベースメント階付きであるが、もっと共通しているのは PRINCESS ROAD の一部を除いてセミデタッチドあるいは擬セミデタッチド型となっていることである。

第 7 区はベースメント階付き 3 階建て傾斜屋根型のセミデタッチドであり、第 8 区は非常に長い家並みであり、そのほとんどがベースメント階付き 3 階建てパラペット型であり、パラペットの両端が山形（パラペット上部に白い化粧が施されているものと無いものがあるがベースとなる形から白い化粧のあるものが本来の形と考えられる）になっているなどの特徴がある。南端に少しではあるがベースメント階付き 2 階建てパラペット型もある。

第 9 地区にはベースメント階を持たない 3 階建て傾斜屋根型とバルコニーの付いたベースメント階付き 2 階建てパラペット型とがある。バルコニーの付くものは今回の調査ではここだけであり、前回の調査を含めても極めて稀である。

② 建物配置の原則

図-14 から図-19 を詳細にみると TERRACED HOUSE による家並み構成の原則が見えてくる。第 1 及び第 2 地区では、建物配置の原則は FIFTH AVENUE を見るとメインストリートを決め、家並みの端部（他の通りとの交差部）を含めてメインストリートに TERRACED HOUSE の正面を向けるという風に読み取れる。実際 LOTHROP STREET と ILBERT STREET の間では FIFTH AVENUE がこれらの通りと交わる場所に他と異なったデザインの建物を FIFTH AVENUE に向けて配置しておりそれは FIFTH AVENUE を軸に対象形を成すとともに間の KILRAVOK STREET を軸とした対象形をも成している。ILBERT STREET より南部でも FIFTH AVENUE を軸とした対象形が形作られている。また LOTHROP STREET より北では FIFTH AVENUE を軸とした対象形には成されていないが街区ごとに両端には同一デザインの建物を配し中央を軸とした対象形を成している。しかし他の部分を良く見ると別の原則が見えてくる。それは街区の短辺を優先する、短辺に接する街路に対しては端まで全て正面を向けるといった原則である。FIFTH AVENUE を例にしたメインストリート説はこの街路に面しているのが ILBERT STREET より南を除けば全て街区の短辺であり、FIFTH AVENUE の ILBERT STREET より南側が例外的な存在である。

表-05：家並分類一覧（N,S,E,W は街路から見た建物の立つ方位を示す）

街路名	方位	住戸種類数	構成単位型	家並型	住戸数	両側関係型	地域番号	街路記号	掲載図番号	住戸数	家並型	構成単位型	住戸種類数	方位
PEACH ROAD	E	2	e	オ	34	4	01	a01	図-09	32	ウ	b	2	W
SIXTH AVENUE -1	E	2	e	オ	35	4	01	a02-1	図-09	37	オ	e	3	W
SIXTH AVENUE -2	E	2	b	ウ	24	0	01	a02-2	図-09	25	ウ	b	2	W
HUXLEY STREET	E	3	b	ウ	21	0	01	a03	図-08	24	ウ	b	3	W
FIFTH AVENUE -1	E	5	e	オ	34	4	01	a04-1	図-09	35	オ	e	3	W
FIFTH AVENUE -2	E	2	e	オ	16	0	01	a04-2	図-09	16	オ	e	2	W
FIFTH AVENUE -3	E	5	e	オ	28	0	01	a04-3	図-08	29	オ	e	5	W
GALTON STREET	E	3	b	ウ	24	0	02	a05	図-08	24	ウ	b	3	W
FOURTH AVENUE	E	3	e	オ	12	3	02	a06	図-08	25	オ	e	4	W
THIRD AVENUE-1	E	4	b	エ	21	4	02	a07-1	図-09	31	オ	b	5	W
THIRD AVENUE-2	E	2	b	エ	5	4	02	a07-2	図-09	22	カ	b	4	W
THIRD AVENUE-3	E	3	b	オ	29	4	02	a07-3	図-08	8	力	b	3	W
SECOND AVENUE	E	3	b	カ	19	4	02	a08	図-08	29	エ	b	2	W
BARFETT STREET	E	3	b	カ	19	0	02	a09	図-08	19	カ	b	3	W
FIRST AVENUE	E	2	b	エ	39	4	02	a10	図-08	19	カ	b	3	W
BRAVINGTON ROAD -1	E	1	b	ア	34	3	03	a12-1	図-07	36	ア	b	1	W
BRAVINGTON ROAD -2	E	1	b	ア	29	3	03	a12-2	図-07	29	ア	b	1	W
BRAVINGTON ROAD -3	E	2	b	ウ	47	3	03	a12-3	図-07	41	ア	b	1	W
PORTNALL ROAD-1	E	1	b	ア	32	3	03	a13-1	図-06	32	ア	b	1	W
PORTNALL ROAD-2	E	1	b	ア	37	3	03	a13-2	図-07	29	ア	b	1	W
PORTNALL ROAD-3	E	2	b	ウ	63	3	03	a13-3	図-07	53	ウ	b	2	W
ASHMORE ROAD -1	E	2	b	イ	25	3	03	a14-1	図-06	28	イ	b	3	W
ASHMORE ROAD -2	E	3	b	イ	40	3	03	a14-2	図-06	40	イ	b	2	W
ASHMORE ROAD -3	E	/	/	/	/	4	03	a14-3	図-06	60	イ	b	1	W
FERNHEAD ROAD-1	E	3	b	イ	39	3	03	a15-1	図-06	54	イ	b	2	W
FERNHEAD ROAD-2	E	3	b	イ	22	4	03	a15-2	図-06	/	/	/	/	W
CLAREMONT ROAD	E	1	b	ア	3	0	05	a16	図-05	4	ア	b	1	W
CLAREMONT ROAD	S	1	b	ア	12	4	05	a16	図-05	/	/	/	/	N
MACROOM ROAD	E	1	b	ア	9	3	04	a17	図-05	8	ア	b	1	W
SALTRAM CRESCENT	E	3	b	イ	92	3	04	a18	図-05	60	イ	b	3	W
MALVERN ROAD	E	5	b	イ	36	4	04	a19	図-05	/	/	/	/	W
KILBURN PARK ROAD	E	3	b	ウ	87	/	08	a20	図-05	/	/	/	/	W
WALTERTON ROAD	E	2	b	イ	32	4	04	a21	図-05	50	イ	b	6	W
CARTON TERRACE	E	2	a	ア	16	3	09	a22	図-05	3	ア	a	1	W
RANDOLPH GARDENS	E	1	b	イ	6	/	07	a23	図-05	/	/	/	/	W
CAMBRIDGE GARDENS	E	3	b	イ	5	3	06	a24	図-05	8	イ	b	3	W
ALLINGTON STREET -3	E	2	c	カ	4	4	01	b01-3	図-10	/	/	/	/	W
ALLINGTON STREET -2	N	/	/	/	/	4	01	b01-2	図-10	26	キ	c	2	S
ALLINGTON STREET -1	E	/	/	/	/	/	01	b01-1	図-10	5	キ	c	2	W
KILBURN LANE -1	E	2	b	ア	38	/	01	b02	図-10	/	/	/	/	W
KILBURN LANE -2	N	/	/	/	/	/	01	b02	図-10	27	ア	b	2	S
OLIPHANT STREET-1	E	2	b	ア	55	3	01	b03-1	図-10	42	ア	b	2	W
OLIPHANT STREET-2	N	3	b	ア	27	3	01	b03-2	図-10	20	ア	b	2	S
NUTBOURNE STREET -1	N	2	b	ア	/	3	01	b04-1	図-10	17	ア	b	2	S
NUTBOURNE STREET -2	N	3	b	ア	9	2	02	b04-2	図-10	37	ア	b	2	S
MARUE STREET -1	N	2	d	ア	16	4	01	b05-1	図-11	7	ア	d	2	S
MARUE STREET -2	N	3	e	オ	40	0	02	b05-2	図-11	43	オ	e	3	S
LOTHROP STREET -1	N	1	d	ア	14	0	01	b06-1	図-11	13	ア	d	1	S
LOTHROP STREET -2	N	3	e	オ	45	0	02	b06-2	図-11	47	オ	e	3	S

街路名	方位	住戸種類数	構成単位型	家並型	住戸数	両側関係型	地域番号	街路記号	掲載図番号	住戸数	家並型	構成単位型	住戸種類数	方位
KILRAVOCK STREET -1	N	1	b	ア	13	0	01	b07-1	図-11	13	ア	b	1	S
KILRAVOCK STREET -2	N	4	d	オ	49	0	01	b07-2	図-11	49	オ	d	4	S
ILBERT STREET -1	N	2	b	ア	11	3	01	b08-1	図-11	4	ア	b	2	S
ILBERT STREET -2	N	2	b	カ	13	4	01	b08-2	図-11	14	ア	b	3	S
ILBERT STREET -3	N	3	d	オ	51	4	02	b08-3	図-11	10	ア	d	3	S
DROOP STREET	N	4	b	ウ	25	/	01	b09	図-12	/	/	/	/	S
ENBROOK STREET	N	2	b	ア	27	3	02	b11	図-12	21	ア	b	2	S
CAIRD STREET	N	/	/	/	/	/	03	b12	図-12	24	ア	b	1	S
ALPERTON STREET	N	1	b	ア	16	3	02	b13	図-12	20	ア	b	2	S
SHIRLAND ROAD-1	N	2	b	ア	18	3	03	b15-1	図-12	12	ア	b	1	S
SHIRLAND ROAD-2	N	2	b	ウ	34	4	04	b15-2	図-13	34	ウ	b	2	S
BRADISTON ROAD	N	1	b	ア	9	3	04	b18	図-13	13	ア	b	1	S
DENHOLME ROAD	N	1	b	ア	17	3	04	b19	図-13	13	ア	b	1	S
CROXLEY ROAD	N	2	b	ア	21	3	04	b20	図-13	28	ア	b	1	S
FORDINGLEY ROAD	N	1	b	ア	28	3	04	b21	図-13	28	ア	b	1	S
LYDFORD ROAD	N	1	b	ア	28	3	04	b22	図-13	13	ア	b	1	S
WARLOCK ROAD	N	1	b	ア	15	3	04	b23	図-13	17	ア	b	1	S
BARNSDALE ROAD	N	1	b	ア	18	3	04	b24	図-13	15	ア	b	1	S
ERRINGTON ROAD	N	1	b	ア	11	3	04	b25	図-13	8	ア	b	1	S
FERMOY ROAD	N	1	b	ア	30	3	09	b26	図-12	31	ア	b	2	S
HORMEAD ROAD	N	1	b	ア	23	3	09	b27	図-12	24	ア	b	1	S
CHICHESTER ROAD	N	1	c	イ	8	/	06	b28	図-12	/	/	/	/	S
PRINCESS ROAD	N	1	c	イ	31	0	06	b29	図-12	33	イ	c	2	S
CAMBRIDGE AVENUE	N	2	c	イ	20	/	06	b30	図-12	/	/	/	/	S
OXFORD ROAD	N	6	c	イ	25	/	06	b31	図-12	/	/	/	/	S
CARLTON VALE	N	2	c	ウ	6	4	07	b32	図-12	4	イ	b	2	S

参考文献

- 1) Stefan Muthesius THE ENGLISH TERRACED HOUSE 1982, Yale University
- 2) Doreen Yarwood DOREEN YARWOOD ENCYCLOPEDIA OF ARCHITECTUR 1985, B. T. Batsford Ltd
- 3) Edward Jones & Christopher Woodward THIRD EDITION A GUIDE TO THE ARCHITECTURE OF LONDON 2000, Seven Dials, Cassell & Co
- 4) Alan Godfrey Edition OLD ORDANCE SURVEY MAPS
47:Kensal Green & Queen' s Park
48:St John' s Wood